

水辺のごみ見つけ! 2026 報告シート

▼調査内容 ※は必須要項

参加証明書(PDF)を希望する

団体名・個人名※

非公開希望

賛同会員希望(無料)

既に会員

人数※ 名 調査年月日※ 年 月 日

回収の有無※ 調査のみ 回収済み

調査場所※ 川 海 湖沼・その他の水辺 まち

場所名称※ 例: OO川(OO水系) 水系がわかる場合は記載

都道府県※ 市町村※

調査地点※ 例: OO橋周辺など

調査距離※ m 川の場合の調査範囲 両岸 片岸

水辺の距離。川の場合は片岸の長さ、まちの場合は道のりの長さをご記入下さい。

飲料ペットボトル※	<input type="text"/>	本※1	レジ袋	<input type="text"/>	枚※2	カップ型飲料容器	<input type="text"/>	個※2
-----------	----------------------	-----	-----	----------------------	-----	----------	----------------------	-----

※1 ペットボトルが大量の場合は、標準的な本数(1袋)×袋数の概数値でもOKです。

※2 調査しなかった場合は「0」、調査していない場合は「-」をご記入下さい。

なぜ、この場所にゴミがあると考えられますか?

多かったごみ・気になったごみ、ゴミを減らすためにできる事など、気づいたことを記入してください

▼報告者情報

氏名※ E-MailまたはFAX※

- 毒ヘビやスズメバチなど危険な生き物にご注意ください。
- 水面・水中での活動以外の場合は、水の中には入らないようにご注意ください。
- ボランティア保険、傷害保険などはそれぞれでご加入ください。
- 水面・水中で活動する場合は、必ずライフジャケットを着用し、安全にご配慮ください。

▼報告先：全国川ごみネットワーク

全国川ごみネットワーク



PC・スマホ



ごみゼロアプリで送る



メールで送る



FAXで送る

kawagomi.jp/mikke_form.html
活動の写真もお送りください。
WEBなどで紹介します。

kawagomi.jp/2025/03/dl
調査しながら
記録していくアプリです。

kawa53@kawagomi.jp
報告シートエクセルデータの
ダウンロードもできます。
https://kawagomi.jp/link/

0234-28-8191

制作：全国川ごみネットワーク

水辺のごみ見つけ! 2025

全国水辺のごみ調査報告



全国の水辺で3種類のごみの個数調査をしました。

2025年は全国の40都道府県の水辺で、
992件の調査が行われました。

■調査結果2025年

飲料ペットボトル
32,339本

レジ袋
5,756枚

カップ型飲料容器
2,380個

調査距離(水辺の長さ) **393.0**km 調査人数 のべ**12,386**人



■調査状況の経年変化

調査件数(992件)は、過去最高

幅広い世代や定期的にごみを拾う個人の方等、参加の層が広がり、調査件数が大きく増加しました

※2022年より国土交通省の河川管理者による調査協力が加わっています。



レジ袋は、有料化(2020年)以降は、減少傾向が継続していますが、下げ止まりとなっています。さらなる対策を進めなくてはなりません。

本調査は、生き物や自然界への影響を及ぼすごみの散乱状況を全国規模で把握し、ごみの散乱防止対策、水辺の環境保全活動へ役立てることを目的にしています。

調査を通して、ごみはどこから来るのか、自分たちに何が出来るのかを考えました。

全国川ごみネットワーク

TEL 080-8167-8577
FAX 0234-28-8191
e-mail kawa53@kawagomi.jp



kawagomi.jp



河川基金 公益財団法人河川財団
による河川基金の助成を受けています。



調査実施団体・個人 (掲載を希望しない団体・個人を除く)

【北海道】

西江建設(株)、檜山北高校地域探求13班、NPO法人天塩川を清流にする会、北広島市役所、ランコ・ウシ尻別川河川愛護の会、NPO法人沙流川愛クラブ、NPO法人十勝多自然ネット、NPO法人帯広NPO28サポートセンター、幌延河川事務所、名寄河川事務所、札幌河川事務所、江別河川事務所、千歳河川事務所、滝川河川事務所、旭川河川事務所、倶知安開発事務所、今金河川事務所、鶴川沙流川河川事務所、釧路河川事務所、帯広河川事務所、他

【東北地方】

NPO法人パートナーシップオフィス、★美しい山形・最上川フォーラム、阿賀川・川の達人の会、海の自然史研究所、NPO法人北上川サポート協会、(株)エフワーク、ボランティアグループ「かけはし」、ふるさと川・荒川づくり協議会、米代川の環境を守る会、高瀬川河川事務所、青森河川国道事務所(藤崎出張所、八戸出張所)、岩手河川国道事務所、北上川下流河川事務所(飯野川出張所、大崎出張所、鹿島出張所)、仙台河川国道事務所、福島河川国道事務所、能代河川国道事務所、秋田河川国道事務所、山形河川国道事務所、他

【関東地方】

NPO法人新田環境みらいの会、★新河岸川水系水環境連絡会、まつどゼロウェイスト、隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会、ふるさと清掃運動会実行委員会、杉並区立井荻小学校、★東京都大学咸研究室、NPO法人空堀川に清流を取り戻す会、空堀川を考える会、日野市環境大学、JP労組東京(多摩西連協)、海をつくる会、ファミリー原さんち、横浜市立鶴ヶ峰中学校、みずとみどり研究会、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム、荒川下流河川事務所、岡部優大、岡部優気、高橋隆昌、福田隆行、他

【北陸・中部地方】

岡谷こどもエコクラブ、諏訪湖創生ビジョン推進会議、下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会、木曾川河畔の文化的景観を守る会、伊勢湾・三河湾継美隊、魚と子どものネットワーク、高田河川国道事務所、金沢河川国道事務所、沼津河川国道事務所、静岡河川事務所、天竜川上流河川事務所、庄内河川事務所、木曾川上流河川事務所、三重河川国道事務所、山田優子、船越寛史、他

【近畿地方】

(公社)湘南工業団地協会、人と自然を守る会、柳川を愛する会、釣り人による清掃活動、★同志社大学(公共経済)、NPO法人プロジェクト保津川、南丹清掃(株)、ガールスカウト大阪府第21団15、大阪商業大学原田ゼミ、★三井住友海上火災保険(株)大阪自動車営業第一部、日本武道玉谷道場スポーツ少年団、NPO法人地域と自然ちよいまる、淀川管内河川レンジャー、福知山河川国道事務所、木津川上流河川事務所、猪名川河川事務所、淀川河川事務所、大和川河川事務所、豊岡河川国道事務所、姫路河川国道事務所、和歌山河川国道事務所、福井河川国道事務所、山内美穂、白木由温、大東輝彦・大東美輝、他

【中国・四国地方】

釣り人みんなで、ごみ拾い、アースレンジャー地球環境アカデミー、あわっ子!エコ!クラブ、パナソニックエナジーあわ支部、高橋建設(株)、鳥取河川国道事務所、倉吉河川国道事務所、日野河川事務所、浜田河川国道事務所、福山河川国道事務所、香川河川国道事務所、松山河川国道事務所、高知河川国道事務所、他

【九州地方】

遠賀川いかだフェスタ実行委員会、遠賀川流域住民の会、嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会、金辺川を楽しむ会、笹尾川水辺の楽校運営協議会、田川ふるさと川づくりの会、中島自然再生協議会、なつき河童団、原田自治犬鳴会、響みどりの会、六角川、川の学校、伊万里市コミュニティセンター、本明川交流会、弥生の森と清流を守る会、武雄河川事務所、佐賀河川事務所、長崎河川国道事務所、佐伯河川国道事務所、他

(敬称略/順不同/その他個人多数)

※★関連団体・個人が多数実施

※身近な水環境の全国一斉調査と共にたくさん報告をいただきました。

2025調査結果

■調査概要

- 調査期間：2025年4月～11月
- 調査件数：992件
- 参加人数：12,386人
- 調査距離：393.0km

■集計

(調査地別内訳)	川	海	湖沼	合計
調査件数(件)※1	935	44	13	992
飲料ペットボトル(本)	30,656	1,354	329	32,339
レジ袋(枚)	5,107	556	93	5,756
カップ型飲料容器(個)	2,199	54	127	2,380
調査範囲(Km)※2	369.9	8.6	14.5	393
参加人数(人)	11,471	224	691	12,386

- その他、まちで32件、合計：ペットボトル 943/レジ袋 254/カップ型飲料容器42 水辺とまちの合計で、1024件の報告がありました。
- その他、河川管理者から重さや容積などの参考情報10件の報告もありました。

※1 同じ地点でも調査時期が異なる場合は複数件としてカウント

※2 川の両岸を調査した場合、片側の水辺距離の2倍で計算すると、調査した水辺の長さは469.8kmになりました。

■大量のペットボトルが生産されています

PETボトルリサイクル推進協会によると、日本のペットボトル出荷本数は年々増加しています(2024年度：275億本)。その中でも85.1%がリサイクルされています。

毎年大量のペットボトルが生産・流通・消費されています。作る人・売る人・使う人、みんなが飲み終わったペットボトルを正しく分別排出することがとても大切です。

■河川管理者も協力=全国各地で調査実施

全国の一級水系河川事務所の河川管理者の調査が2022年より継続し、4年目となりました。2025年は29都道府県の53水系から、計90件の調査報告を受けました。市民調査と合わせると、40都道府県となり、全国各地で調査が実施されました。



■参加証明証を発行

参加証明証を希望する項目にチェックが付いた報告の団体(個人)宛に、計47枚の調査参加証明証を発行しました。



またマイボトル利用等をして使用量を削減したり、自然界への散乱を防ぐことも重要です。

みなさまからご報告いただいた調査結果は、毎年、PETボトルリサイクル推進協会、(一社)全国清涼飲料連合会、日本プラスチック工業連盟、(一社)プラスチック循環利用協会等に報告しています。

ご協力ありがとうございました

■参加者の声

<ごみが捨てられる状況> ~ごみはどこから来るの?~

●場所や環境要因

ひと目につきにくい場所(橋の下、雑草が繁茂など、外から見えにくいところ)

車両通行が多い堤防道路、信号待ちの車両からの不法投棄

●管理・システム上の要因

ごみ集積所の不備(川沿いに集積所があり飛来する)

●人の行動要因

住宅地を流れる川の橋の上から通行人がポイ捨て、喫煙者の吸い殻ポイ捨て

野球場、スポーツ広場、バーベキュー、釣りなど河川利用者が多いところでの放置

●自然要因

漂着(常時の上流からの漂着、洪水時のごみを取り残される)

<ごみを減らすために> ~自分たちは何ができる?~

●市民から

監視体制の強化

住民の意識を変えていく。マナーの徹底を粘り強く継続

ごみ箱設置。逆に撤去して持ち帰りの徹底

●河川管理者から

利用者に向けた啓発、地域への啓発、排出者への働きかけ

こまめな回収、草刈り、清掃活動などで綺麗な状態を保つ

車両の進入禁止、看板設置など設備の改善

<その他>

散歩中の人から「ご苦労様」と声をかけられることもあり、活動の励みになる(市民)

シギやチドリの良い餌場だが、泥の中にプラスチックごみが埋まっている(市民)

昔は汚い川だったが、現在は工場への指導などもあり、美しい水に戻っている(市民)

散乱状況から、家庭ごみを袋ごと投棄している人がいると思われる(河川管理者)

全体的としてはゴミが少なく、利用者のマナーが良いと感じた(河川管理者)

2026年度も調査にご協力ください

